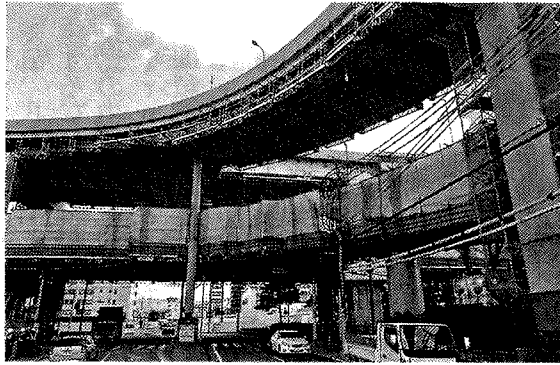


日刊 建設工業新聞

福北公社 橋梁補修でクイックデッキ初採用

広成建設は13日、福岡市東区東浜の福岡北九州高速道路公社が管理する都市高速道路の橋梁補修工事現場で建設専門紙らを対象に現場見学会を開いた。写真。交通量の多い交差点の直上で施工するため、日綜産業の新型システムつり足場「クイックデッキ」を公社発注工事で初めて採用。国内では最大規模の施工面積となる同足場を桁下に設け、落下物の防止など安全面に最大限配慮しながら工事を進めている。

見学会を行ったのは「箱崎」東浜橋梁補修工事(28-17)。福岡高速1号線の東浜出入口口を含む延長2.03km、18径間の



区間で炭素繊維シートによる床版の補強、高欄や塗装の補修、ボルトの取り換えなどを行っている。

工期は19年1月15日。周辺には物流センターやショッピングモールが隣接し、一般車両、大型車両の通行が多い。そのため、施工性に加え、墜落や落下物の防止を目的に同社九州支店の現場では初めてクイックデッキを採用した。クイックデッキの施工面積は国内最大規模の7380平方m。9月下旬に組み立てを開始し、これまでに約5000平方mを施工しており、18年2月末に組み立てを終える見通し。補修工事は11月から進めている。奈良崎博紀現場代理人はクイックデッキについて「部材が少なく、落下物のリスクが減る。

施工面積は国内最大規模 広成建設が現場見学会

作業空間も広く、現場にマッチしている。一般的なつり足場に比べ組み立て作業時間は3分の2程度に短縮が見込まれる」と話した。

見学会には福岡市職員や大学生らも参加し、クイックデッキの安全性や施工性を実感した様子だった。

クイックデッキは日綜産業のヒット商品である「3Sシステム」の機能を付加した手すりや支柱、アルミ製床板、オリシナルL型幅木など独自技術を組み合わせた先行床施工式フロア型システムつり足場。隙間がほとんどなく落下物や墜落の事故を防げるほか、部材の多くをピンで固定するため組み立てが容易で、つりチェーンは最大5m間隔で設置できるため広い作業空間が確保できる。

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
©日刊建設通信新聞社 2017

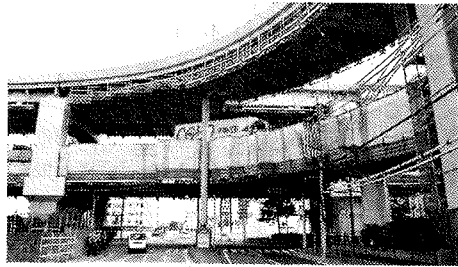
クイックデッキ

広成の橋梁補修に採用

施工面積は国内最大

広成建設は、福岡北九州高速道路公社が発注した「箱崎～東浜橋梁補修工事(28)

7)の現場で、日綜産業の先行床施工式フロア型システム吊足場「クイックデッキ」を採用している。クイックデッキは同公社発注工事では初めての採用で、施工面積は国内最大となる。行政関係者らを対象にした現場見学会が13日に開かれ、参加者は現場の安全性の向上と工期短縮に寄与していることを体験した。クイックデッキは、米国最大手仮設メーカーのセーフウェイ社と国内独占販売契約して市場展開している。人力の



福北高速発注工事に初採用

みの簡易な組み立て、トラス構造による高い強度、跳ね出し作業床による安全でスピーディーな施工の実現など、高度な安全性と施工性・効率性を兼ね備えている。工事は施工長さ203桁、施工面積7380平方桁の床

版補強工と高欄、塗装、鋼構造補修などを行う。これらの足場工としてクイックデッキを採用し、ことし9月に着手した。

このうち約5000平方桁の架設が完了しており、2018年2月に全足場の架設が完了する。工期は19年1月15日まで。工事場所は福岡市東区東浜2。

広成建設の奈良崎博紀現場代理人は、クイックデッキの採用理由について「安全確保のため、墜落と落下物の可能性を考慮して一番その可能性が低いと判断した」とした。また、「従来の技術と比べて作業人員が少なくて済み、架設が簡単なため、作業時間が

従来の3分の2程度となっている。長さ2・5桁の1グリッドを1日当たり約15グリッド架設している」と説明した。

日綜産業の「クイックデッキ」

福岡高速道補修で採用

国内最大の施工面積

福岡高速1号線補修工事に採用された日綜産業のクイックデッキ



【福岡】軽仮設大手の日綜産業（本社＝東京都中央区、小野大社長）の新型システム足場「クイックデッキ」が福岡北九州高速道路公社の工事に初めて採用された。施工を担当する広成建設は13日、大学生や福岡市職員な

どを招き、現場見学会を開催。クイックデッキの安全性や施工性をアピールした。広成建設は工事において今後、足場面積を広げ、施工面積は国内最大となる7380平方メートルに達するという。工事は福岡北九州高

速道路公社が発注、広成建設が受注した「福岡高速1号線（箱崎―東浜橋）補修工事」で、橋梁床版に炭素繊維シートを貼り付けたり、高欄や鋼構造部分の補修・塗装などを行う。工期は今年3月から来年1月まで。広成建設によると、高速道路が上下線で2階建てになっているところ、高速道路の下に一般道路が走っていることから、夜間の仮設足場の組み立ておよび落下物の事故ゼロを目標にクイックデッキを採

用。仮設足場は従来工法と比べ3分の2の時間を短縮でき、落下物事故もゼロだという。クイックデッキは、高い部材剛性と水平旋回式の組立方法により吊点からの跳ね出し最大5メートルの先行床施行で作業床を高所での危険作業なしで安全に施工でき、部材はシステム化されているので専用工具不要で人力での施工が可能。これまでに大型ショッピングモールや航空機組立工場新築工事の天井工事、精密機械工場の天井改修、新幹線高架の改修などで実績を上げている。国土交通省の最新技術情報提供システム（NETIS、登録番号T1150007-A）にも登録されている。

12月14日

2017年
(平成29年)

木曜日

第18979号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology

鉄鋼新聞

日綜産業のクイックデッキ

福岡で現場見学会

道路橋梁向けで国内最大

「クイックデッキ」実施されたのは初め(日綜産業製)現場見学会」が13日、福岡市東区東浜の工事現場で開催された。福岡県で

成建設九州支店(支店長・兼村隆宏執行役員)の主催で、採用面積は7380平方メートル。道路橋梁向けの使用量としては国内最大。

福岡北九州高速道路



公社福岡事務所保全課発注の福岡高速1号線「箱崎～東浜橋梁補修工事」向け「写真」で二層式道路橋の足場工に採用されている。

現場見学会で挨拶した兼村広成建設執行役員九州支店長は「福岡北九州高速道路公社でクイックデッキが採用されたのは初めてで、規模的には日本では最大の施工面積になるということで、広く伝えたいとの思いで見学会を開催しました」と挨拶した。